

## 2 和歌山県歴史資料アーカイブ



### (1) 目的

和歌山県歴史資料アーカイブ

近年、文書館等の資料保存利用機関において、インターネットを通じた所蔵資料の公開が進んでいる。当館でも平成30年(2018)12月、過去の和歌山を記録した古文書や写真などの貴重な歴史資料に、県内外の方々が広く親しむ機会を提供し、資料の活用を図ることを目的としてデジタルアーカイブ「和歌山県歴史資料アーカイブ」を開設した。

### (2) 資料の収集・公開

和歌山県歴史資料アーカイブにおける資料の収集と公開に当たっては、

- ・和歌山県の歴史や文化を知る上で重要と考えられるもの
- ・学術的に利用価値が高いもの
- ・目録が整備されているもの

を基準にしている。

館蔵資料のみならず、県内の他機関の資料も収集・公開することを当初から予定していたことから、令和元年(2019)度に県内の歴史資料の所在状況を把握するため、県内の市町村教育委員会、公立高等学校及び公立図書館を対象として歴史資料の所在確認調査を行った。この調査の結果、串本古座高校、耐久高校、御坊市教育委員会で所蔵する資料の複製資料の収集及び公開が実現した(写真1)。

また、令和2年から国立国会図書館により正式運用が始まった、多様なコンテンツをまとめて検索・閲覧・活用できるプラットフォームである、ジャパンサーチにも参加している。資料画像の利用条件を原則CC-BY※とすることで、複製や掲載にかかわる申請手を省略し、利用者と運営側双方にとって利用しやすい環境を整えた。



写真1 和歌山県歴史資料アーカイブのトップページ  
お知らせ欄で新規掲載した文書群の紹介を行っている。  
画像は、県立串本古座高校所蔵「中根文庫」公開時のもの。

※ クリエイティブ・コモンズ・ライセンス (CC ライセンス) が提供するインターネット時代のための新しい著作権ルールで、CC-BYは、原作者のクレジット (氏名、作品タイトルなど) を表示することを主な条件とし、改変、営利目的での二次利用も許可されるライセンスのこと。

### (3) 資料の収集から公開までの流れ

デジタルアーカイブで公開する資料の収集から公開までの流れを示したのが、右の図1である。ここでは、他機関の資料を借用する場合の手順を加えている。

和歌山県歴史資料アーカイブへ掲載するに当たっては、目的、収集・公開基準に基づき、地域、資料群の内容、資料点数などを勘案して公開に適した資料を探すところからスタートする。

資料調査の結果、公開に適した資料であると判断した場合、所蔵者に公開の可否について判断していただく。公開可となれば、資料を一時借用する。

借用した資料は、適切な管理のもと、状態確認及び目録のデータ入力や補正といった処理を行い、委託業者によりマイクロフィルム又はデジタル撮影を実施し、公開用の電子データを作成する。資料の内容や形態により最適な撮影方法を選択し、デジタル化を進めている。

撮影終了後に資料を返却し、公開ページの作成に着手する前に、著作権、肖像権、プライバシー権等の権利関係を確認して公開可能と判断できた資料をインターネット上で公開している。

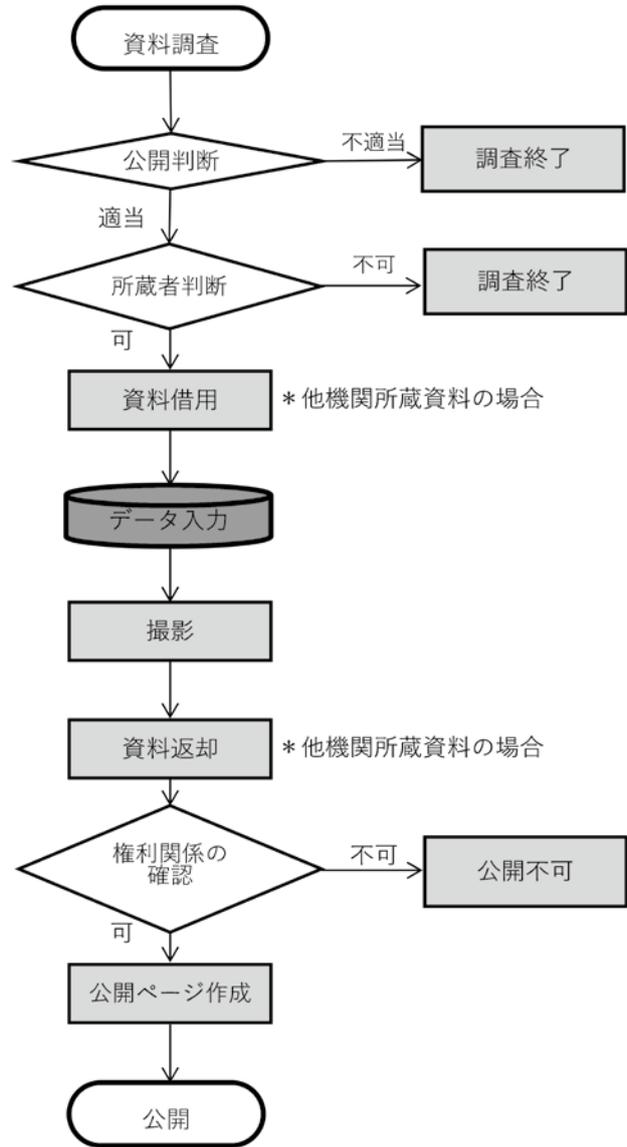


図1 デジタルアーカイブの資料収集から公開までの流れ

### (4) 資料の撮影及びデジタル化

和歌山県歴史資料アーカイブで資料の画像を公開するに際しては、デジタルカメラを用いた撮影を行っている（写真2）。また、マイクロフィルムにより撮影した資料は、順次デジタルデータに変換し、公開を進めていく予定である。



写真2 専門業者によるデジタル撮影のようす  
(撮影協力 ムサシ・アイ・テクノ株式会社)

## (5) 公開資料

### ア 古文書

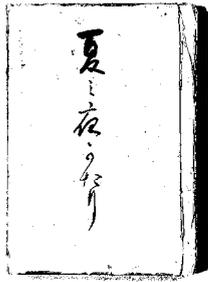
古文書については、当館の所蔵資料を中心に公開している（表1）。そのほか、稲むらの火の館、県立耐久高校及び県立串本古座高校といった県内の各施設で所蔵する資料のデジタル化及び公開を行っている。

表1 古文書の公開状況

(令和5年3月31日現在)

公開年度	公開日	文書群名	区分	内容	点数	画像数
平成30	12月21日	堀内家文書	館蔵	紀州藩史研究の基本資料とされる『南紀徳川史』を編纂した堀内信にかかわる文書。	5	38
		山崎家文書	寄託	那賀郡大垣内村（現和歌山市大垣内）に所在し、近世には庄屋・御蔵庄屋などを務めた山崎家に伝わる文書。（目録のみ公開）	(目録のみ)	0
		谷口家文書	寄託	名草郡冬野村（現和歌山市冬野）に所在し、村の庄屋を務めたこともある谷口家に伝わる文書。（目録のみ公開）	(目録のみ)	0
		高橋哲郎家文書	寄託	和歌山市木ノ本の旧家であった高橋家に伝わる文書のうち、中世文書3点。	3	6
		丹生家文書	寄託	伊都郡かつらぎ町天野に鎮座する丹生都比売神社の社家を務めた丹生家に伝わる文書のうち、中世文書18点。	18	63
		安楽川村文書Ⅰ	館蔵	那賀郡元村（現紀の川市桃山町元）と、市制・町村制施行後の安楽川村に関する文書。Ⅰは「村」に関する文書、Ⅱは役場関係の文書が中心となっている。（目録のみ公開）	(目録のみ)	0
		安楽川村文書Ⅱ			(目録のみ)	
令和元		なし			0	0
令和2	6月12日	稲むらの火の館所蔵 渋谷家文書	複製	有田郡広村（現広川町広）に所在し、明治初年から末期ごろ実業家として活躍した渋谷家に伝わった文書。	23	444
	7月14日	安楽川村文書Ⅰ 安楽川村文書Ⅱ	館蔵	（目録のみ公開していたものを、画像公開した。）	384	5,596
	11月5日	県立耐久高校所蔵 耐久梧陵文庫	複製	濱口容所ら広村（現広川町広）の有力者が学校へ寄贈した江戸から明治時代の書籍が中心。名称は同校の前身である稽古場創設者の一人である濱口梧陵にちなむ。	22	959
	令和3年3月30日	県立串本古座高校所蔵 中根文庫	複製	古座の郷土史家であった中根七郎が収集・書写した201点の書籍。	156	9,906
令和3	令和4年3月31日	御坊村文書	館蔵	御坊村（現御坊市御坊）の庄屋が書き留めた「御用留」と「御用留抜写」を中心とする文書群。	58	2,650
令和4	6月21日	紀州藩付家老 安藤家家臣団名簿	館蔵	幕末から明治初期にかけての紀州藩付家老安藤家家臣団の名簿5点。	5	263
計					674	19,925

\*著作権保護期間中の著作物はデジタル化のみ行い、非公開としている。



和歌山県立総合資料館蔵 和歌山県立総合資料館蔵

写真3 渋谷家文書

### 渋谷家文書（稲むらの火の館所蔵）

旧有田郡広村（現広川町広）に所在し、明治初年から末期ごろ実業家として活躍した渋谷家に伝わった文書群である。

安政南海地震のあと発生した津波から逃げる人々のために「稲むらの火」で誘導したことが知られる、濱口梧陵（1820～1885）に関する古文書『夏の夜かたり』は、特に貴重。



和歌山県立総合資料館蔵 和歌山県立総合資料館蔵

写真4 御坊村文書

### 御坊村文書（当館所蔵）

御坊村（現御坊市御坊）の庄屋が書き留めた『御用留』と『御用留抜写』を中心とする58点の文書群。嘉永7年（1854）11月から始まる『御用留』には、同年11月4日の東南海地震、翌5日に発生した南海地震の被害や対応について書かれている。

## イ 行政刊行物等

和歌山県が制定した条例や規則、告示などを印刷・発行した『和歌山県報』や、本県の広報紙である『県民の友』を順次公開している（44ページ表2）。

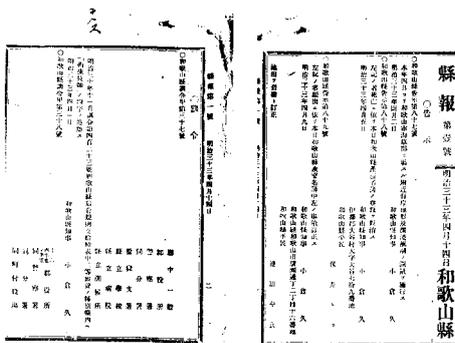


写真5 『和歌山県報』

### 和歌山県報

明治33年（1900）4月から現在まで、条例、規則、告示、公告などを載せて発行している。和歌山県政を知る上で基礎的な資料。



写真6 『県民の友』

### 県民の友

昭和22年（1947）9月から現在まで刊行が続いている県の広報紙である。

記事の見出しデータを和歌山県オープンデータカタログサイトで公開している。

表2 行政刊行物等の公開状況

(令和5年3月31日現在)

公開年度	公開日	資料群名	内容	点数	画像数
平成30	12月21日	和歌山県報	明治33年・34年	91	2,141
		県民の友	昭和22年・23年	38	80
令和元	7月2日	和歌山県報	明治35年・36年	245	1,591
		県民の友	昭和24年・25年	64	200
令和2	8月7日	和歌山県報	明治37年・38年	258	1,723
		県民の友	昭和26年・27年	72	242
令和3	5月20日	和歌山県報	明治39年・40年	259	2,002
		県民の友	昭和28年・29年	29	128
令和4	5月11日	和歌山県報	明治41年・42年	246	3,002
		県民の友	昭和30年・31年	25	259
計				1,327	11,368

ウ 写真・絵図

昭和13年(1938)4月に竣工し、現在も使用している和歌山県庁舎の設計者で県の営繕技師であった増田八郎に関する「和歌山県営繕技師増田八郎資料」をはじめとした写真や絵図を公開している(表3)。



写真7 和歌山県営繕技師増田八郎資料

和歌山県営繕技師増田八郎資料(当館所蔵)

県庁舎の設計段階から完成に至るまでの工事の過程を撮影した写真や新庁舎に関する新聞記事の切抜きがスクラップされている。

表3 写真・絵図の公開状況

(令和5年3月31日現在)

公開年度	公開日	資料群名	区分	内容	点数	画像数
平成30	12月21日	玉田コレクション	複製	紀州博物館学芸員であった玉田伝一郎氏が、所蔵者の承諾を得た資料をデジタル化し収集した資料群。	31	31
		和歌山県営繕技師増田八郎資料	館蔵	和歌山県営繕技師として、現和歌山県庁舎(昭和13年4月竣工)の設計・監督を務めた増田八郎に関する資料。	24	24
		老の苧環	館蔵	元紀州藩士で、『南紀徳川史』を編纂した堀内信により書き残された記録。	2	68
令和元	8月14日	和歌山県営繕技師増田八郎資料	館蔵	(平成30年度に一部公開していたものを追加公開した。)	2	416
計					59	539

\*「和歌山県営繕技師増田八郎資料」は、統計の便宜上初回公開時の数に追加公開時の数を積算して集計している。

## (6) 実績

これまでに当館でデジタル化した点数を表4に、公開した点数を表5に示した。

表6は、和歌山県歴史資料アーカイブへのアクセス件数である。

表4 デジタル化点数

(令和5年3月31日現在)

種別	デジタル撮影				マイクロフィルムの電子化	
	館蔵		他機関		館蔵	
年度	点数	画像数	点数	画像数	点数	画像数
平成30	0	0	0	0	26	107
令和元	0	0	0	0	386	1,290
令和2	0	0	18	1,836	384	5,596
令和3	0	0	26	2,918	58	2,650
令和4	114	1,994	6	710	5	263
計	114	1,994	50	5,464	859	9,906

\*マイクロフィルムの電子化は平成30年度以前から行っているが、ここでは便宜上デジタルアーカイブ事業開始後の点数を挙げた。

表5 公開点数

(令和5年3月31日現在)

種別	古文書		行政刊行物等		写真・絵図		計	
	点数	画像数	点数	画像数	点数	画像数	点数	画像数
平成30	26	107	129	2,221	57	123	212	2,451
令和元	0	0	309	1,791	2	416	311	2,207
令和2	585	16,905	330	1,965	0	0	915	18,870
令和3	58	2,650	288	2,130	0	0	346	4,780
令和4	5	263	271	3,261	0	0	276	3,524
計	674	19,925	1,327	11,368	59	539	2,060	31,832

表6 アクセス件数

(令和5年3月31日現在)

年度	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	計
アクセス件数	4,018	6,325	8,869	9,302	8,539	39,273

\* Google Analytics を使用